

大好き！絵本

初瀬 恵美



『わけあって絶滅したけど、すごいんです。～世界一楽しい進化の歴史～』

監修: 今泉忠明・丸山貴文
著: サトウマサノリ
出版社: ダイヤモンド社

今月ご紹介する『わけあって絶滅したけど、すごいんです。～世界一たのしい進化の歴史～』です。長い地球の歴史の中で、どんな生き物が反映し、何が原因で絶滅していったのかを分かりやすく紹介してくれています。

100万年に一度開かれるという大会。それは「ぜつめつどうぶつ じまんたいかい」というすごい大会。主役は絶滅した動物達。お客さんは今を生活している現代の動物達。どんな大会になるのかみんなわくわく、楽しみにしながら始まりました。

自慢大会は、古い時代の動物から順番に登場です。1番は先カンブリア時代のディッキンソニア。この時代の地球には目にみえないほど小さな生き物しかいない中で、1mくらいの大きさに進化できたそうです。

2番目は古生代カンブリア紀のアノマロカリス。「目」を手に入れた動物です。「みえるんだ・みえるんだよ。」という言葉が、とても印象的でした。古生代は火山の噴火による酸素の減少、メタンの増加で90～95%の生物が絶滅したそうです。

このように大量の生物が絶滅した後の中生代で栄えた生き物は、子どもたちに大人気の恐竜達です。保育園では図鑑でよく見る恐竜達。この絵本では図鑑では感じられない躍動感や親近感を感じました。恐竜好きの子どもたちの大好きなページとなっています。そんな栄華をほこった恐竜たちも隕石の衝突により終わりを迎えました。

そして、現代につながる新生代へ。人類の祖先のアウストラロピテクスの登場から今の「ヒト」になるまでの進化が最後に描かれています。ここで自慢大会の終了です。このように、それぞれの時代を代表する動物と絶滅した理由が、分かりやすい絵と文章で紹介されている絵本です。

また、絵本の最後には「ひろげて まなぼう 絶滅—超ロング→年表」と「たぶんだいたい↑これくらい↓絶滅どうぶつおおきさくらべ」の表がついています。大きさ比べは、絶滅動物が現代の街にあらわれたら、これくらいの大きさ！という、とっても比較しやすく分かりやすい図解がついています。もう見るだけで面白いこと間違いなし！ぜひ、こちらもお子さんと一緒に、ワイワイ楽しくご覧になっていただけたらと思います。そしてぜひ、5億年以上前から始まる壮大な地球の生命の進化の歴史を色々な角度から感じて、学んでいただけたらと思います。

おわりに余談ですが、最近の記録的な暑さをみなさんはどう思われますか？グテレス国連事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代が来た」と警告。各国や企業に対し、温暖化対策を加速させるよう訴えたというニュースを聞きました。実際、暑さが原因の山火事や道路で転倒してやけどを負う人が続出したなど、今までとは違う時代の到来を感じさせるニュースが続々と報道されています。この「地球沸騰」の時代の到来の原因を作ったのは、まぎれもなく人間の活動です。

絵本の中では、火山や隕石の衝突等により繁栄をほこった生き物が、絶滅に追いやられたことが紹介されていましたが、不可抗力としかいいようがない天災でした。

人がもたらしている現在の状況とはあまりにも対照的です。そういったことを感じながら、再度温暖化対策と向き合うことの大切さを痛感する一冊にもなりました。この夏、大人の方にもおすすめの絵本です。

